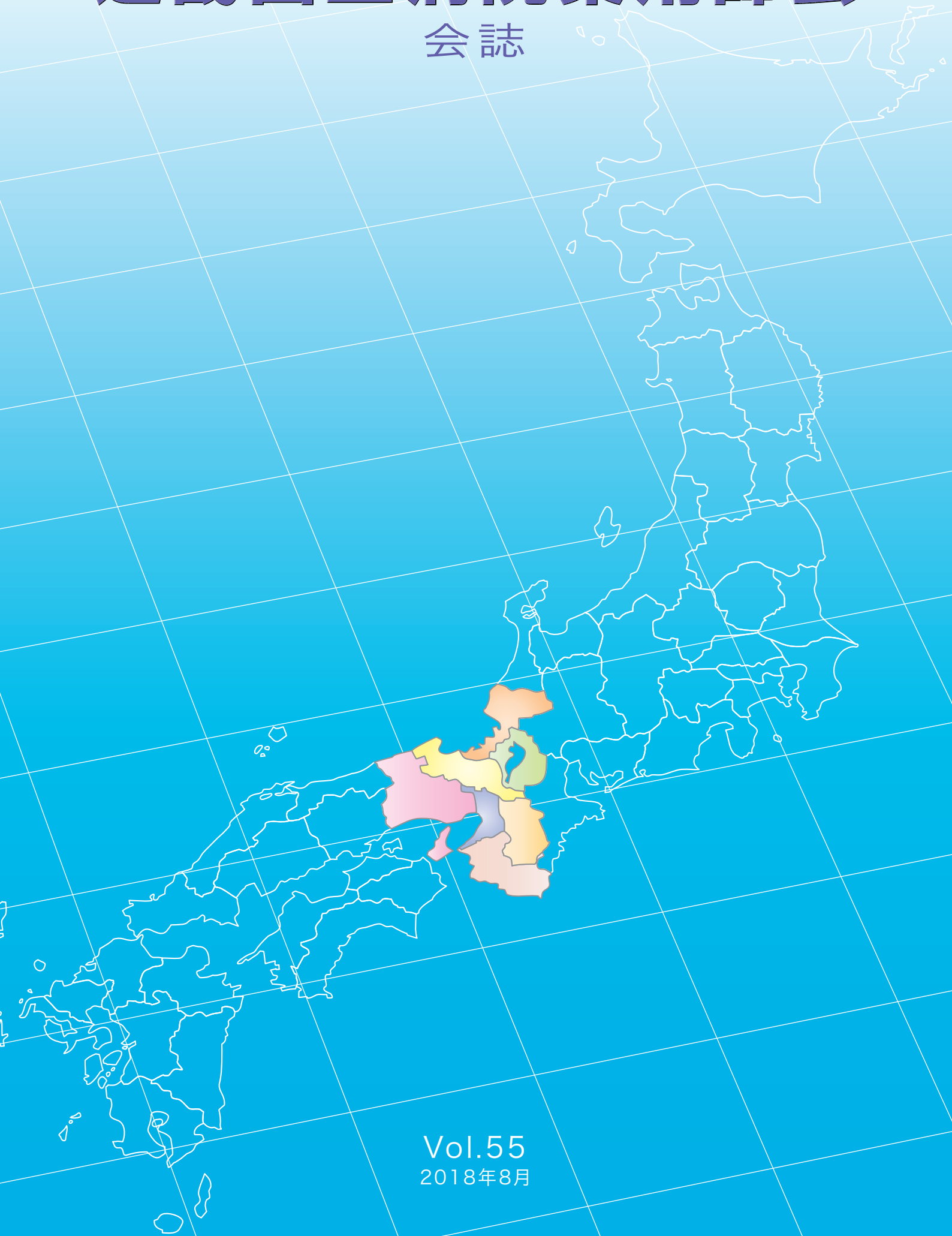


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.55
2018年8月

目 次

提言 ～繋ぐ～	2
	和歌山病院 福田 利明
薬剤部紹介.....	3
	奈良医療センター 山本 靖子
近畿国立病院薬剤師会薬剤師の集いに参加して.....	5
	大阪南医療センター 白崎 佑磨
平成 30 年度新任中間監督研修に参加して.....	6
	大阪医療センター 松尾 友香
「平成 30 年度教育セミナー フィジカルアセスメント中級コース (Advance)」に参加して.....	8
	刀根山病院 保井 健太
「平成 30 年度教育セミナー フィジカルアセスメント初級コース (Basic)」に参加して.....	10
	兵庫中央病院 山口 志郎
学会報告	
「医療薬学フォーラム 2018」参加報告.....	11
	国立循環器病研究センター 宇野 貴哉
趣味のページ ～台湾の思い出～.....	12
	兵庫中央病院 石裏 悠希
編集後記.....	13

提言 ～繋ぐ～

国立病院機構 和歌山病院 福田利明

私の現在の素直な気持ちを書きたいと思います。

今年 4 月に、和歌山病院の薬剤部長として赴任し、幹部としての 1 年目を現在過ごしております。責任は重くなりましたが、仕事に対する思いに私の中では大きな違いは現在のところありません。

現施設で私は 10 施設目となります。職歴は、①国立京都病院、②国立療養所比良病院、③規制当局（医薬品機構 治験指導部、医薬品医療機器審査センター 審査第 2 部）、④国立大阪病院、⑤国立滋賀病院、⑥姫路医療センター、⑦宇多野病院（臨床研究部 医師主導治験調整事務局）、⑧南和歌山医療センター、⑨大阪医療センター、そして⑩和歌山病院、となります。

10 施設程渡り歩いて、私の中で提言としての言葉は、「繋ぐ」です。

私の今置かれている立場から、「繋ぐ」とは、次の者へ継続・成長を託されたと考えますので、現在、幹部としての 1 年目を託されたことができているのか日々葛藤しながら過ごしています。

「繋ぐ」と言っても、色々なバトンの渡され方、渡し方、共有を経験してきていますが、その中で最も重要なことは、一般的にはなりませんが信頼関係だと思います。

規制当局に出向時の人と現在も繋がっているのは信頼関係と気づいたことがあります。企業治験すら全く経験のない私が宇多野病院に異動し、そこで医師主導の治験事務局を行う時、治験研修会を行う時、影からバックアップしてくれたのは規制当局の旧友、上司でありました。信頼関係を築くにはマニュアル本等では色々書かれていますが、私は 1 番の大きな幹は人（相手）を思う気持ちだと思います。

例えば、日常業務の調剤室当番の引継ぎ等を見れば、自然とその人間性が見えたり普段の業務からも薄っすらと感じる場面はないでしょうか？

薬剤師は今後もさらに専門・高度化し責任が重くなることは明らかで、日頃からのスキルアップは欠かせないですが、その土台として他人を思う気持ちがどれだけあるかが、組織・社会の中にいる人間としてとても重要と考えます。

近畿国立病院の薬剤師数は私が勤め始めた頃とは比べものにならないくらい、増加しました。全員と信頼関係を一人ずつ築きあげるのは困難ですが、信頼の築いた人をおして、信頼できる人が網目状に繋がり強固な組織になることは可能と考えます。NHO 施設では異動があります。施設が離れても、時間が経過しても信頼関係があれば、良好な強い繋がりを持ち続けます。次へ繋ぐ、人を繋ぐ、のは信頼関係に他ならないと考えます。

次へ「繋ぐ」、人を「繋ぐ」ために、残された時間を微力ながら信頼されるよう精いっぱいがんばりますので、今後ともよろしく願いいたします。

薬剤部紹介



独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

<http://www.nho-nara.jp/>

【病院概要】

奈良医療センターは、奈良市の西部、西ノ京にあり、近くには、世界遺産である薬師寺や唐招提寺がある風光明媚な地です。平成 16 年に旧国立療養所西奈良病院と国立奈良病院が、西奈良病院の地で統合され奈良医療センターとして発足しました。

結核、重症心身障がい、神経難病、てんかんなど神経・筋疾患を主とする政策医療をはじめ、亜急性期から慢性期に対応するため、リハビリテーションを強化した医療と、地域に密着した一般診療を提供しています。

施設内は、さくらの名所として知られており、毎年春には、近隣住民の方と一緒にさくら健康まつりを催しています。病院の前の大池は、万葉集にも詠まれている由緒正しい池で、冬には野鳥が生息し、夏にはなぜかたくさんのカメが出没しています。大池からのぞむ薬師寺と若草山は、奈良を代表する景観となっています。



さくら病棟



2018 年 3 月

【病院基本理念】

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院作りを目指します。

【薬剤部概要】

薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任 2 名（調剤主任・薬務主任）、薬剤師 3 名、助手 1 名の合計 8 名で構成されています。

結核病棟と混合病棟（脳神経外科、耳鼻咽喉科、整形外科、呼吸器内科）の 2 病棟に薬剤師が常駐し、持参薬確認は、短期入所を含め、全ての病棟で実施しています。チーム医療では、てんかん、パーキンソン病、NST、ICT、褥瘡、緩和ケアなどのチーム医療に参加し、多職種と積極的に意見交換を行っています。

最近では、近隣の医療機関や保険薬局も参加して年 2 回、院内で吸入指導勉強会を開催し、薬薬連携の向上を図っています。（文責：山本 靖子）



「薬剤師の集いに参加して」

大阪南医療センター 白崎佑磨

6月2日、3日に滋賀県大津市雄琴温泉で薬剤師の集いが開催されました。薬剤師の集いは大阪発のバスツアーから始まり、旅館 里湯昔話雄山荘での小委員会、そして夜には宴会が開かれました。私は、入職して1年目であり、まだお会いしたことのない他施設の先生方との親睦を深める良い機会だと思い、喜んで参加させていただきました。

バスツアーでは、約50名の先生方と共に道中ゲームやビンゴ大会を楽しみながら、まず近江八幡に向かいました。近江八幡では日牟禮八幡宮を参拝したり、八幡堀を船でめぐったりし、風情を感じながらゆったりとした時間を過ごすことができました。その後、久保多屋で近江牛のステーキを堪能し、バスは最終目的地である雄山荘へと向かいました。バスツアー全体を通してとても充実した時間を過ごすことができ、企画してくださった先生方には深く感謝申し上げます。

雄山荘ではまず各小委員会が開かれました。私は感染免疫アレルギー小委員会に参加し、アンチバイオグラムについて勉強させていただきました。恥ずかしながらアンチバイオグラムについて何も知らなかった私にとっては、この小委員会は大変実りあるものとなりました。今回得た知識は、今後の業務に是非とも活用していきたいです。また、他の各委員会でもそれぞれ活発な議論がなされており非常に盛り上がった様子でした。

そして夜には、本田会長の乾杯の挨拶から宴会が始まりました。宴会では多くの先生方が集まり盛大に行われました。合間には神戸医療センターの先生方や私たち1年目の余興が行われました。私も大勢の方々の前でダンスを披露することになり、とても緊張していましたが、終了後には達成感が得られ、さらにはダンスの練習を通して同期との親睦を深めることができ、とても貴重な経験になりました。また、宴会中は、様々な先生方とお話しすることができ、楽しくかつ有意義なひとときを過ごすことができました。

今回初めて薬剤師の集いに参加し、他施設の先生方と交流をもたせていただき、自施設だけでは得られることのなかった知識や情報を得ることができました。また今後、このような数多くの素晴らしい先生方と共に仕事をしていくことが楽しみになりました。今後もこのような場に積極的に参加することで親睦、交流を深めて自身の知識や見聞を広げたいと考えています。

末筆ではございますが、今回企画や宴会等準備してくださった京都南部・滋賀地区の先生方には厚く御礼申し上げます。

平成 30 年度 新任中間監督者研修報告

大阪医療センター 松尾友香

開催日時 平成 30 年 7 月 4 日 (水) 9:30~17:15
平成 30 年 7 月 5 日 (木) 9:00~17:15
開催場所 大阪医療センター緊急災害医療棟 3 階 講堂
研修プログラム 「国立病院機構における病院経営について」
「中間監督者に求められるスキル」
参加者 99 名

1 日目の前半は開講式の後、近畿グループ運営指導専門職より「国立病院機構における病院経営について」の講義を受けた。

まず初めに、「経営とは、事業目的を達成するために、継続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、事業を管理・遂行すること」と説明があり、「経営」は「運営」とは違い、業務の目的、今後への継続、成長していくための作戦（戦略、人材育成）が必要であるということを学んだ。次に、国立病院機構の経営改善について説明があった。経常収支状況やこれまでの経営改善策の提示があり、国立病院機構の現状を再確認するとともに、おそらくこの講義を受けなければ知ることもしなかったであろう様々な改善策がなされていることを知った。次に、経営改善の考え方について説明され、会計・財務の基礎知識から費用削減、人件費率の考え方まで、具体的に説明していただき、理解を深めることができた。また、「すぐにできる経営改善」として、アンケート等による患者満足度調査やホームページ等を利用した広報活動が紹介され、これらを行うことで選ばれる病院づくりに繋げることを学んだ。講義の最後に、国立病院機構の経営課題について説明があった。ここでは、増え続ける人件費や建物・医療機器の老朽化等の内部要因、運営費交付金削減や診療報酬のマイナス改定等の外部要因の影響により、今後の国立病院機構経営の課題は多く、非常に厳しいことを学んだ。

1 日目後半からは、株式会社インソースの上垣重浩先生より「中間監督者に求められるスキル」についての講義と、グループワークがあった。

1 グループは薬剤師、看護師、保育士、栄養士、理学療法士、技師、専門職等、様々な職種の 6~7 人で構成され、1 日目と 2 日目のグループではメンバーが異なった。両日ともに最初に自己紹介を行い、緊張感を少し解した後に、グループワークへ進んだ。

「中間監督者である私達に上司や部下は何を求めているか」のテーマから始まり、上垣先生のご経験を交えた講義では、中間監督者には①業務遂行・管理における役割、②教育・指導者としての役割、③プレイヤーとしての役割が求められることを学んだ。その後、チームマネジメントや目標達成のための調整力等のテーマでディスカッションを行ったが、

私にとって一番興味深かったのは「部下・後輩とのコミュニケーション」であった。部下が報告や相談に来た際、どのような態度や姿勢で応えているだろうか、これまでの自分の行動を振り返ってみると、反省点改善点が複数あった。これらは明日からでもすぐに実行できる些細なことではあるが、気付くことができて良かったと思う。

グループワークでは、職種や経験年数は異なるが同じような悩みや課題を共有することができた。中間監督者同士で意見を交換できたことが一番の収穫ではないかと感じた。

「平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会主催生涯教育セミナー
フィジカルアセスメント中級コース (Advance)」に参加して

刀根山病院 保井 健太

平成 30 年 7 月 21 日 (土) にニプロ iMEP で開催された「生涯教育セミナー 中級コース」に参加させて頂きました。

今回の生涯教育セミナーのテーマは、フィジカルアセスメントでした。セミナーでは模擬患者を用いたグループ研修があり、ファシリテーター1人と受講者4人～5人の1組で行いました。シナリオは、虫垂炎の35歳男性に対して、服薬指導中に看護師役がスルペラゾン点滴を点滴するのですが、その前後で聞き取りとフィジカルアセスメントを行い、患者の急変に対して臨機応変に対応できるかというものでした。

点滴前には心音、脈拍、呼吸音、血圧、グル音やアレルギー歴等を確認していききました。その患者は、10年以上前に風邪薬を飲んで発疹がでた既往歴以外はバイタル等もすべて正常でした。看護師役がスルペラゾンの点滴を開始すると「体がほてってきて、ムズムズするし、呼吸がしにくくなった」という発言があり、その後意識が消失しました。私たちは患者の症状がアナフィラキシーショックであると考え、ナースコールを押して応援を呼びました。すぐに看護師役が来て点滴を止め、主治医役を呼びにりました。その間に私たちはもう一度フィジカルアセスメントを行い、心マしやういようにベッドの柵を外し、血圧の低下を防ぐために足を挙上しました。患者の状態は、心音聞こえず、脈はふれず、呼吸音はヒューヒューという音で、血圧120/80から69/32まで低下していました。それらを確認している間に主治医役が到着し、応急処置をするのですが「何をを使うか？何を優先的に行うか？量はどのくらい必要なのか？また正常に戻らない場合に次に何をどのくらいするのか？」を細かに質問されました。質問に対してグループで相談しながら答えていきましたが、バイタルは正常に戻りませんでした。そのため気管挿管を主治医役に依頼しましたが、救急カートに器具がないとのことで行えずに残念ながら模擬患者は亡くなってしまいました。



その後 SGD で反省点や良かったことを抽出していききました。私たちのグループでは、バイタルが正常に戻らない時の対処を知らなかったこと、酸素量が少なかったこと等が問題点として出された他、日々のカートの点検などの医療安全の話題もありました。臨床

現場でこのような状況に陥いる想定をした話が多く出て、充実した SGD となりました。今回の様に勤務年数が長く、知識も豊富な他施設の先生方と一緒にセミナーを受けることは、新たに知識を得るだけではなく、臨床現場で問題が起こったときにどのように対処して解決していくかなど、明日からでもすぐに使えることが学べ、私にとって大きな実りとなりました。今後業務に生かしていけるよう精進していき、また機会があれば是非参加したいと思います。

「平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会主催生涯教育セミナー
フィジカルアセスメント初級コース (Basic)」に参加して

兵庫中央病院 山口 志郎

平成 30 年 7 月 21 日(土)に、ニプロ iMEP で開催されました近畿国立病院薬剤師会主催生涯教育セミナーに参加しましたのでご報告させていただきます。

研修会は、フィジカルアセスメントベーシック・アドバンス・症例検討 SGD・機器展示の 4 部構成で行われました。

フィジカルアセスメントベーシックでは、バイタルサインとフィジカルアセスメントについて講義を受けた後、各グループに分かれ、血圧測定や、フィジコを用いた脈拍数・呼吸数の測定・心音・呼吸音・腸音の聴診、ロールプレイで意識レベルの評価を行いました。

血圧測定は 2 人 1 組に分かれ聴診器とアネロイド血圧計を用いた聴診法で行い、上腕動脈を触知し、聴診器を当て、加圧した後、減圧しながらコロトコフ音を確認し収縮期血圧と拡張期血圧を測定しました。

フィジコは、人体と同様に可動し、問診のできる全身モデルで、心音・呼吸音・腸音・脈拍数・呼吸数等を聴診・触診することができます。呼吸音から呼吸数の評価と、気管呼吸音と肺泡呼吸音で音の大きさや音の高低差があることが確認できました。また腸音から腸運動の状態を評価し、橈骨動脈に触れ脈拍数の測定を行いました。

ロールプレイでは、電車内で体調不良を訴えた方に対して、見当識障害があるか、呼びかけに対し反応・開眼があるか、痛みの刺激に対して反応があるか確認し Japan Coma Scale (JCS) で評価しました。

その後、フィジカルアセスメントアドバンスに移りシナリオ症例による実技体験（抗菌薬投与時のアナフィラキシーショック症例）をし、SGD で症例の振り返りをしました。

バイタルサインを確認し、フィジカルアセスメントを行うことは、適切な薬物治療と副作用の早期発見に重要です。今研修では座学だけでなく、実際にバイタルサインを測定しフィジカルアセスメントすることができ有用でした。しかし、経験が少なくバイタルサインを取ることも難しく、また得られた情報をどう評価するか、どのような病態を表しているのか、疾患においてこういったバイタルサインに注意しなければならないか等学ばなければいけない課題が多いと感じました。今後も研鑽を積み、実臨床で活かせるよう努力していきたいと考えます。



「医療薬学フォーラム 2018」参加報告

国立循環器病研究センター 宇野 貴哉

平成 30 年 6 月 23 日（土）、24 日（日）の両日、東京ビッグサイト TFT ホールにおいて開催されました医療薬学フォーラム 2018 に参加いたしましたので、ご報告させていただきます。

第 26 回目となる本大会のメインテーマは「よりよい医療を目指して ―基礎と臨床の連携が実現する医療薬学の成果―」でした。

医療が益々多様化・複雑化・高度化する中、それを支える医療薬科学の重要性は増しており、社会から期待されるものも多くなっております。実際に、病棟薬剤業務、在宅医療等、今までの薬剤師業務のみならずさらに広汎に患者の生活にかかわり、薬物療法の有効性と安全性、および QOL の確保に貢献することが求められています。このような状況の中、基礎と臨床を連携させ、基礎薬学に裏付けられた質の高い医療を患者や国民へ提供したい、このような思いが今回のテーマに込められています。

本大会では、当院からも「クロトリマゾールの併用中止により、急激なタクロリムスの血中濃度低下が認められた 2 症例の報告」という内容でポスター発表を行いました。免疫抑制剤タクロリムスは、移植後拒絶反応を抑制するために広く使用されていますが、至適血中濃度域が狭いため、薬物代謝酵素 Cytochrome P450 を介した薬物相互作用による血中濃度の変動に注意する必要がある薬剤として知られています。本症例で使用されましたアゾール系抗真菌薬であるクロトリマゾールの剤型は、外用であるトローチでしたが、併用中止後翌日より、クリアランスの改善に伴う急激な血中濃度の低下を認め、タクロリムスの至適血中濃度を維持するために、投与量を約 4 倍に増量させる必要があるという結果が得られました。

本大会を通し、薬学教育をはじめ、基礎・臨床研究、ビッグデータの利活用に関するシンポジウムやポスター発表を聴講し、基礎と臨床の連携の重要性を実感しました。日々の薬剤師業務で生じた課題に対し、基礎と臨床の両側面のエビデンスを基に解決できるよう努力すると共に、積極的に情報発信を行い、エビデンスの構築にも取り組んでいきたいと思っております。



趣味のページ ～台湾の思い出～

兵庫中央病院 石裏 悠希

やまと精神医療センターの大住先生よりバトンを受け取りました、兵庫中央病院の石裏と申します。私が「趣味は何？」と聞かれるとすぐに思い浮かぶのは旅行です。海外に行き、その国の料理を食べるのが大好きです(バリ島でナシゴレンを食べ過ぎてしばらく椅子から動けなくなったこともあります)。今回はお隣の台湾を旅行した時の思い出について書かせていただこうと思います。

台湾旅行は初めてだったのでガイド付きのツアーにしました。ガイドさんは50代のおじさんで日本での留学経験があり日本語がとても上手でした。台湾では故宮博物館、士林夜市、九份、淡水、忠烈祠などを巡りました。そのなかで特に印象に残った士林夜市、九份についてお話したいと思います。

士林夜市は台湾最大の夜市で、B級グルメからゲーム、アクセサリなど多種多様なお店が混在しています。士林夜市のタピオカミルクティーは日本よりカップは大きく、タピオカは山盛りでした。安くておいしく台湾に行ったら是非飲んでとおすすめしたくなりました。

しかしながら、士林夜市ではなんとも言えない臭い香りがします。匂いの源は台湾の国民的料理、その名も「臭豆腐」！ガイドさんの説明だとアヒルの血などを発酵させて作った豆腐だとか... この臭豆腐、強烈な匂いがします(ドブのようでした...)。ガイドさんによると、日本の納豆が臭いのと同じだとか。海外の人が納豆の匂いを嫌がるのと同じかなと思い食文化の違いを鼻で感じました。

九份はジブリ映画の千と千尋の神隠しのモデルとなったといわれる街です。沢山の赤い提灯、石畳の細い道、両脇に軒を連ねる多くの露店や茶店の賑わい。まさに映画の中の世界でした。九份は標高が高いため、涼しく九份から見る夕焼けは幻想的な街並みと相まって絶景でした。

同じアジアの国でも文化の違いを数多く感じた台湾旅行でした。美しい景色に美味しい食べ物、その地の匂い。旅の醍醐味をしっかりと感じ充実した旅行となりました。

ご拝読ありがとうございました。次回の趣味のページは宇多野病院の山階 規子先生にお願いしております。楽しみにお待ちしております。

編集後記

酷暑で始まった今年の夏。皆さん体調はどうでしょうか。

暑すぎてアイスが売り切れるということもありました。

夏休みで人員が少ない中、今号も多くの方々に原稿執筆にご協力頂きありがとうございました。

第 100 回の甲子園はドラマが続きました。あの姿を見ていると夏バテなんてしてられない、目標に向かって走らないとという気持ちに少しなります。秋は食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、紅葉など楽しみが多い季節と思います。皆で夏を乗りきりましょう。

(K.D)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第五十五号 平成 30 年 8 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

京都市伏見区深草向畑町 1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久（京都医療）

編集 広報担当理事 山下 大輔（京都医療）

広報委員 小田 亮介（京都医療）

藤原 佐知子（大阪南医療）

喜田 孝史（京都医療）

中西 剛志（姫路医療）